

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

308号

2016年10月号



発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

セウォル号の900日 真実を家族の手に、民衆の手に！

●厳しい闘いから広がる共感と連帯

未曾有の海難事故、セウォル号惨事から900日を迎えた。危険承知の船体構造、過積載、経験や訓練が不備な乗務員構成、そして劣悪な天候下での出航強行等々、事故は明らかに人災であった。増してや、現場に向かった海洋警察が船内に閉ざされた命に手を差し伸べず、その海洋警察をはじめ国家機関に指示すべき大統領が事故発生後7時間も姿をくまらなことで、事故犠牲は一層深刻化した。犠牲者たちの多くが住んだ安山(안산)市のある団地の棟からは、20名もの高校生が一度に帰らぬ人となった。理不尽な若き死の痛ましさをゆえ、韓国の全土から悲痛な声が起こり始めた。

惨事100日目、真相究明を求める闘いへ大きく踏み出した犠牲者家族たちは、やがて支援する人々と「4月16日の約束国民連帯(4.16連帯)」を結成、一

層その意志と団結を強固なものにした。だが、闘いの汎国民化を最も恐れたのは朴槿恵政権であった。政権に不利な情報を遮断するため大統領秘書室が直々報道機関に圧力をかけ、家族の闘いを歪曲する悪宣伝を振りまいた。それでも広がる闘いを前に、4.16連帯への直接弾圧、支援合流する労働者デモに対しても暴力弾圧が繰り返された。

家族が無期限ハンストをするその傍で、チキンやピザ等を暴食するという下劣なデモが行われたことがある。「従北者を殺せ」「ハンストは嘘だ」等と罵るその一団は「日刊ベスト保存所」という、SNSサイトで日々社会の少数者への偏見を煽る集団や、「大韓民国オボイ連合」という、朝鮮戦争世代中心の極右反共集団等からなる。既に、オボイ連合に脱北者が動員され全経連からの資金援助の事実が明るみになり、国家情報院との関係も浮上した。そこには南北の対立を煽り、格差社会を助長する勢力が家族の闘いを妨害するという、韓国社会の矛盾の縮図のような光景が垣間見える。

家族の中には、唯一人のわが子を失い、学資金に

と貯めたお金をすべて使って「2度と悲惨な事故のない安全な社会を作りたい」と闘う人々がいる。日々街頭に立ち、安山―ソウル間数十キロをデモ、2度の剃髪闘争、決死的無期限ハンスト…。署名は850万筆を超え、もはや家族、そして4.16連帯は大衆的に勝利したはずである。それでもまだ闘うのは真相究明されないまま、あの惨事が人々の記憶から消えてはならないからである。

●真相究明への正念場

真相究明への道程は未だ険しい。今年6月27日、特別調査委員会は、セウォル号が当時、規定の1.8倍に当たる2215tの貨物を積載し、そこには、当時島民の反対にもかかわらず、強行建設中だった済州海軍基地用の鉄筋が100t以上含まれていたと報告。船の実質オーナー



▲セウォル号特別法改正案制定を求める遺族

が国情院という外郭情報と併せ

ると、セウォル号が何らかの国家権力の要求を受けた船舶であったことが、真相究明によって明らかになることは間違いない。

かろうじて成立施行された特別法だが、特別調査委員会への予算執行は6月に末打ち切られた。その後、調査員たちが続けた無給での調査活動も9月30日で強制解散となった。今後、真相究明のため特別検事制の導入という道が残されているが、それは国会議長(第1党から選出)が各党院内代表の合意を取付けて国会に職権上程(国会議長に特別認められた決議案上程権限)できる。総選挙で野党が多数派を握ったからこそ可能な方案だが、同時に、野党勢力の真相究明に対する意志も試される。万一、従北攻撃にひるんだり、来年の大統領選挙に向け自党有利な政局作りの駆け引きの誘惑に駆られ、毅然とした態度をとれなければ、真相究明の闘いは頓挫し、その政党も国民からの信頼失墜という憂き目にあうであろう。

真実を家族のもとに、民衆のもとに取り戻すため、一時も気をそらせる訳にはいかない。(範)

昨年11月14日、ソウルで開かれた民衆総決起闘争で警察の放水銃の直撃を受け意識不明となったペク・ナムギ農民が9月25日、亡くなられました。韓統連中央本部は、遺族に哀悼の意を表すとともに、真相究明と責任者処罰を求める声明を発表しましたので紹介します。

声明 「ペク・ナムギ農民暴力弾圧致死」事件の真相究明と責任者処罰を成し遂げよう！ 民衆総決起闘争に連帯して朴政権を退陣に追い込もう！

昨年11月14日、ソウルで繰り広げられた民衆総決起闘争において、警察の直撃放水を浴びて意識不明の重体が続いていたカトリック農民会のペク・ナムギ農民が9月25日、亡く



▲故ペク・ナムギ農民

なられた。韓統連は故人の冥福を心より祈るとともに、遺族に深い哀悼の意を表するものである。

民衆総決起闘争は民生を破綻させ民主を後退させ、平和を破壊し統一を阻害する無能・無責任・不通の朴権恵政権に対する民衆の天を衝く怒りが結集したものであり、民衆による当然の抗議行動である。これに対して朴政権は警察力を総動員、法規をこえる徹底した弾圧を加え、ペク・ナムギ農民がその犠牲となった。

しかし、警察当局と政権側は当初から、暴力弾圧を正当化し自らの責任を否認、謝罪どころか見舞いもしようとしなかった。先日ようやく開かれた1日聴聞会でも、警察当局は不誠実な態度に終始し、真相究明とはほど遠い結果で終わった。

それだけでなく、政権側はペク・ナムギ農民が亡くなるや、待っていたかのように、故人の診療記録を押収し、さらには剖検（ぼうけん、解剖して調べること）を推進しようと血眼になっている。ペク・ナムギ農民の死因は直撃放水ではないとすることで、真相を隠蔽（いんぺい）し責任回避を図ろうとする、極めて卑劣な意図があることは明らかだ。

韓統連は政治的にはもちろん、人倫的にも決して許すことのできないこうした悪辣（あくらつ）な行為を強硬に進める朴政権を、厳しく糾弾する

ものである。

現在、遺家族および市民社会団体が構成された闘争本部、そして野党は、ペク・ナムギ農民を悼みながら、剖検を全力で阻止するとともに、特別検事制度の導入による真相究明と責任者処罰を必ず成し遂げようと決意、政権側に対抗している。

韓統連も真相究明と責任者処罰の実現を強く求めるものである。



▲故ペク・ナムギ農民の遺族

プラカードには「殺人政権糾弾！」と書かれている。

さらに2016民衆総決起闘争本部は、参加者すべてがペク・ナムギ農民の意志を体現し、10月1日の汎国民大会、11月12日の15万人民衆総決起闘争を成功させて、朴政権を完全に包囲し退陣へと追い込む全面闘争を力強く宣言した。

朴政権による被害者はペク・ナムギ農民だけでなく、セウォル号惨事の高校生たちもまさにそうだが、朴大統領は一度も謝罪したことはない。国民の生命を守らず、反省もしなければ責任も取らない政権には退陣の道しかない。

韓統連は高揚する国内の民衆闘争に固く連帯しながら、海外の地からも朴政権の退陣を求めて闘い抜くことを今一度、誓うものである。

2016年9月29日

在日韓国民主統一連合（韓統連）

民族主義者 呂運亨先生の 生涯について学ぶ ウリ歴史近現代史 I

私たち民族の正しい歴史を学ぶため、韓統連関西協議会主催で「ウリ歴史近現代史 I」が9月18日(日)、小田地区会館(兵庫県尼崎市)で開かれた。



▲呂運亨先生の生涯などについて解説する孫亨根議長

学習会は1部・2部形式で進行され、1部では韓統連中央本部が作成した歴史教科書「ウリ歴史(上・下)」をもとに、1945年から1948年までの歴史について読み合わせを行い、その後、講師の孫亨根(ソン・ヒョンゴン)韓統連中央本部議長が、解放直後の米国とソ連による信託統治などについて解説を行い、質疑討論を行った。

第2部では、祖国の独立運動家の一人である夢陽 呂運亨(ヨウ・ウニョン)先生の生涯について、DVDの上映が行われた後、孫議長が解説を通じ「呂先生は日帝の植民地支配から解放されるまでは朝鮮の独立のために、解放後は南北、左派・右派が融和合作して朝鮮に一つの政府を作ることに全力を尽くし、祖国統一の実現のために命をかけて闘った偉人の一人」と語った。その後、質疑討論を行い、この日の学習会は終了した。

セウォル号惨事の遺族と共に 真相究明などの声を上げよう 韓統連生野支部学習会

セウォル号惨事が発生して2年5ヶ月が経過し、現在も惨事の真相究明などがされていない中、韓統連生野支部主催で「学習会 セウォル号惨事後

の2年5ヶ月の真実」が9月4日(日)、生野支部で開かれた。

学習会では、金昌秀(キム・チャンス)韓統連生野支部代表委員が開会挨拶を行った後、金昌範(キム・チャンボム)韓統連生野支部副代表委員が、セウォル号惨事の経過と遺族の闘いについて報告を行った。

金副代表はまず、セウォル号惨事の発生原因について船体の安全管理の問題を指摘し、「船体が老朽化しているにもかかわらず建て増しをしたり、出港当時は過積載をしていたことが惨事を招いた」と述べるとともに、惨事後の問題として「船長が先に船を離れるなどのモラルの問題や、海洋警察、朴槿恵大統領の不作為が助けられる命を助けられなかった」と語った。

続いて、真相究明及び責任者処罰、再発防止を求める遺族たちの闘いを画像を通じて紹介しながら、「遺族たちは署名運動、断食闘争など様々な闘いを通じ、国会で“セウォル号惨事特別法”の制定を勝ち取ったが、朴槿恵政権=セヌリ党の妨害によって、現在でも真相究明などは実現せず、そればかりか遺族が活動期間の延長を求めているセウォル号惨事特別調査委員会の活動期限を、9月30日までと制限している」と朴槿恵政権を強く批判し、「遺族たちの闘いに連帯して、真相究明、責任者処罰、再発防止の声をあげていこう」と訴えた。報告終了後は、活発な質疑討論を行い、学習会は終了した。

日朝国交正常化に向けて お互いの顔が見える交流が大切 日朝ピョンヤン宣言14周年大阪集会

2002年9月17日に発表された「日朝ピョンヤン宣言」から14周年を迎え、日朝市民連帯・大阪主催で「日朝ピョンヤン宣言から14年日朝国交正常化の早期実現を求める大阪集会」が9月16日(金)、エルおおさか(大阪市中央区)で開かれた。

集会では、日朝市民連帯・大阪共同代表である加来洋八郎さんが主催者挨拶を行った後、「初めて見たピョンヤン—日朝国交正常化の展望と課題」をテーマに、元衆議院議員で東アジア青年交流プロジェクト共同代表である服部良一さんが講

演を行った。



▲講演を行う服部良一さん

服部さんは今年初めてピョンヤンを訪問、いろいろな施設などを訪れた画像などを紹介しながら、「今回初めてピョンヤンを訪問して、顔と顔が見える交流が大切だということを実感した」と述べるとともに、「日朝国交正常化は最大の戦後処理問題であり、北東アジアの平和構築の要だ」と述

べ、日朝国交正常化の重要性を訴えた。

次に服部さんは、オバマ政権の対北朝鮮政策について「米国は対北朝鮮敵視政策を中止して、朝鮮半島の平和協定を締結しなければならない」と主張した。

集会では続いて「東アジアの平和キャラバン—サード配置が決定した韓国からの報告」を、日韓平和連帯事務局次長の西山直洋さんが行った。

西山さんは今回のキャラバンの目的として「セウォル号惨事が起きた韓国・珍島彭木(ペンモク)港とサードミサイルが配備される星州(ソング)を訪問すること」と述べながら、画像や動画を活用しながら、現地でのセウォル号惨事真相究明、サードミサイル配備撤回の闘いについて報告を行った。

報告後は、安倍首相宛の要請文が朗読・確認され、最後に、日朝市民連帯・大阪共同代表の長崎由美子さんが閉会挨拶を行い、集会は終了した。

〈次代を担う若者たち—韓青大阪本部 活動紹介—〉

アンニョンハシムニカ、韓青大阪本部の李俊一(イ・チュニル)です。そろそろ暑さもひと段落してきましたが、皆様いかがおすごでしょうか？

韓青大阪本部は9月11日に東京で開催された「韓青第26期第3回中央委員会」に参加し、この2年間の総括と、今後2年間の方針を全国の同志たちと共に論議してきました。特に方針論議においては活発な討論がなされ、2017年の政治決戦(大統領選挙)勝利にむけて、全国の同志たちが団結して闘っていくことを誓いました。また中央委員会終了後には「P,s(ピース)マダン」を上野駅前の広場で開催し、街頭で「P,sキャンペーン」を行いました。大阪本部のメンバーも、最初は慣れない場所での街頭宣言活動に多少とまどっていたものの、仲間と共に実践を繰り返すうちに次第に積極的に街の人々に声をかけられるようになりました。この時の奮闘のかいもあって、「P,sキャンペーン」は無事目標枚数を突破。現在、撮った写真を集め、平和の願いを込めた朝鮮半島地図を鋭意作成中です。

また、25日には生野区民センターで「韓青生野北支部第11回定期大会」を開催しました。実に9年ぶりの開催となりましたが、当日はたくさんの盟員たちや先輩方が来られ、会場は大盛況でした。大会では、新委員長にこれまで委員長代行として支部を引っ張ってきた趙暎和(チョ・ヨンファ)君が選出され、正式に生野北支部の執行部が出帆しました。趙暎和新委員長は就任挨拶を通じ「現在厳しい情勢だが、それに屈することなく、力強く運動を進めていきたい。生野区は同胞密集地なので、多くの同胞青年と出会い、つながっていききたい」と抱負を述べました。

大きな行事を2つ終え、大変でしたが収穫の多い9月でした。この成果を生かしながら、今後も活動にまい進していききたいと思います。



▲生野北支部定期大会での記念写真

地道な努力と青年ならではのアイデアで組織強化を目指す

韓青生野北支部委員長 趙暎和 (チョ・ヨンファ)

9月25日(日)に韓青生野北支部第11回定期大会が開かれ、趙暎和さんが新委員長に選出されました。趙暎和新委員長に今後の抱負などを書いて頂いたので紹介します。

韓青生野北支部の委員長に就任した趙暎和です。

定期大会に先立って、東京で行われた在日韓国青年同盟第26期第3回中央委員会では、来年の大統領選挙では必ず保守勢力の再執権を阻止し、第2の6・15時代を切り拓いていくことを運動方針として採択しました。

思えば、私が韓青に参加し始めた2009年、南部祖国はすでに李明博(イ・ミョンバク)ハンナラ党政権下にあり、その年の9月に学生協会員として参加した故国訪問では首都圏を中心に警備体制が敷かれ、不穏な空気が漂っていました。

そのような中でも祖国の青年たちは活動を続けており、次期大統領選挙以後は、また民主化と統一の時代が来るだろうと思っていました。しかし朴槿恵・セヌリ党の執権により、さらに時代は独裁・分断の時代に逆戻りしています。

朴槿恵政権による独裁的な政治手法は留まることを知らず、私たちも活動をしていて無力感に苛まれることが多々ありました。しかし今年4月の国会議員選挙での審判以来、民衆の力が急速に息を吹き返しています。最近ではTHAAD(サード)ミサイル配備問題で、星州の民衆が反朴槿恵・反セヌリ党闘争を展開しており、現政権の支持基盤までもが大きく揺らいでいます。

情勢の動きは予測が難しく、最後まで冷静に見極めなければならないと思いますが、今、祖国が抱えている数えきれない諸問題を解決するのに朴槿恵・セヌリ党政権が、少しでも適任だと思えるのでしょうか。もはや無能であることは誰の目にも明らかだと思います。

追い詰められた与党セヌリ党と青瓦台(大統領

府)は、最後まで自己保身にひた走っていくでしょう。今後も更なる弾圧に打って出ることは間違いありません。彼らの膿を出し切る覚悟で勝利を目指して闘っていきます。

変わって現在、私たち韓青が抱える組織課題としては、運動を継承していくのに必要な要素が質・量ともに依然として不足しているということです。

この間、韓青大阪本部は本部直轄体制によって

徐々に力量を回復してきましたが、支部の閉鎖や再開、盟員の生活環境の変化に伴う活動参加への制限など多くの紆余曲折がありながらここまで来ました。

これからの韓青活動を担う幹部育成は大阪だけでなく、全国共通の組織課題であり、そのためにはウリマル(母国語)教室、学習会といった支

部の事業を充実させていくことと、宣伝活動やレクリエーションを通じて地域の在日同胞青年に韓青の存在をアピールしていくことで、組織を質・量ともに拡大していくことが重要だといえます。すぐに結果が出なくても、地道な努力と青年ならではの豊富なアイデアで組織課題に取り組んでいきます。

最後に、今回の第11期韓青生野北支部定期大会の開催に際し、日々物心両面において支援して下さる韓統連大阪本部及び生野支部の先輩方、日々の活動現場で切磋琢磨しあい、また支えとなって下さる韓青大阪本部ならびに布施支部の同志の皆様、そして全国の韓青同志の皆様にご心より感謝申し上げます。2017年の大統領選挙での勝利に向けて共に闘って参ります。



▲趙暎和 韓青生野北支部委員長

◆◆コラム◆◆

プルガサリ伝説(下)

今回はプルガサリにまつわる多様なイメージが、いかにして作られたのかについて説明したい。

韓国に古くから伝わるプルガサリの説話だが、その大元は仏教の経典に端を発している。様々な比喩故事を収集した『旧雜譬喻経(くぞうひゆきょう)』というお経に「禍母(かも)」という獣の話がある。豊かな平和を当然と思い倦み飽きてしまうと、災禍を自ら買い求めることになる戒める話だが、これがプルガサリ説話の原形になった。

国を滅ぼす獣「禍母」の話は、我が国において高麗の滅亡という歴史的な事実と結びついた。朝鮮後期の様々な事物を解説した書物『松南雜識』では、民間に伝わるプルガサリのお話をこのように紹介している。

松都(高麗)の末期、ある怪物がほぼ全ての鉄を食い尽くした。殺そうとしても出来なかったため、不可殺(プルガサル)と名付けられた。火の中に投げ込んだが、全身が火の塊となって人家に飛び入っていき、家々もまた焼き尽くされた。

このプルガサリの説話は人々に語り継がれる中、いくつものアレンジが加えられていった。その中でプルガサリの誕生は飯粒をこねて作ったものだという話が出てきたが、プルガサリを作ったのは

僧侶だったり、時には老夫婦、はたまた寡婦であったり、様々なパターンが作られた。

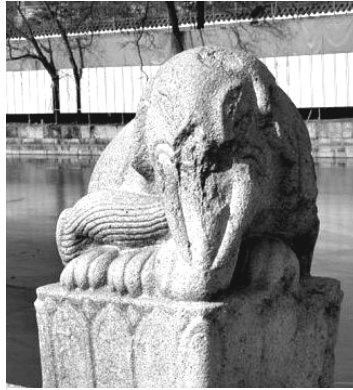
また、火でも殺せないという話のはずが、いや火で殺せるから「火可殺(불가살)」なのだという冗談みたいなパターンもある。民衆の間でプルガサリは次第に多面的な存在となっていた。

さらにプルガサリは「鉄を食う獣」という特徴から、中国の「獮(ばく)」と結びつけられた。中国の伝説上、獮は鉄を食う獣として知られる。ゆえにプルガサリは獮と同一視され、民画などでは獮の姿、すなわち「象の鼻」など様々な動物の特徴を持った姿で描かれた。

こうしてプルガサリは一言で言い表せる存在ではなくなってしまった。象の鼻、熊の体、不死身、亡国、変革、仏法守護、鉄を食い、魔を払う……。姿も性格も、あまりに多様に過ぎる。

不可殺ではなく不可解とでも呼ぶべき怪物だろう。

ちなみに今、韓国語でプルガサリとはヒトデを指す言葉だ。なぜ伝説の怪物の名が海洋生物であるヒトデを指すようになったのか、いよいよ分からない。ヒトデの再生能力が不死のプルガサリを連想させたと言われるが、種々の海産物を食い荒らすヒトデの姿が、伝説のプルガサリの姿を思わせたのかもしれない。(好)



▲景福宮慶会楼に残るプルガサリの彫像

◆◆行事案内◆◆

2016年秋季野遊会 ～みんなでバーベキューを楽しもう～

日時：11月6日(日) 午前11時～(雨天中止)

場所：淀川河川公園太子橋地区バーベキューエリア

(地下鉄谷町線・今里筋線太子橋今市駅下車徒歩8分)

参加費：大人2千円・中・高校生1千円・小学生以下は無料

※当日は場所が分かりやすいよう「黄色いのぼり」を立てます

※おにぎりなどは各自で持参ください。

※ビールは当日販売します。お茶は無料です。

主催：韓統連大阪本部 TEL06-6711-6377



編集後記

韓青生野北支部の定期大会に参加しました。交流会も盛り上がり、青年たちの熱気が伝わってきました。趙暎和委員長、共に頑張りましょう。(ソン)